

#### (一社)情報サービス産業協会殿 セミナー

# 世界のIoTの技術標準化・ビジネスアライアンス 動向と注目株

#### 新世代M2Mコンソーシアム 理事 (株)日立製作所 loT・クラウト・サービス事業部

#### 事業主管 木下 泰三

© Hitachi, Ltd. 2016. All rights reserved.



# Contents

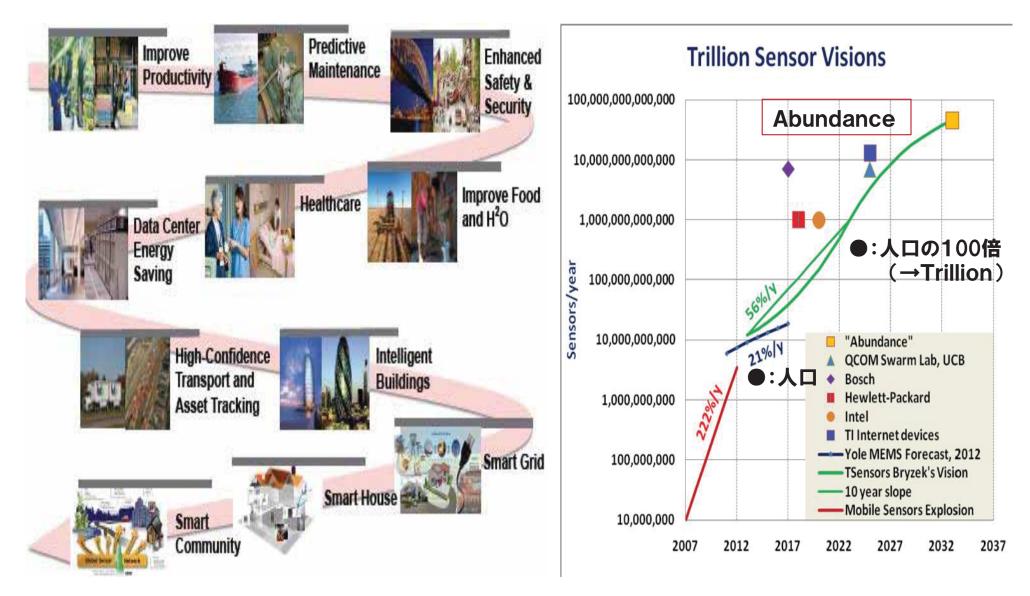
- 1. はじめに
- 2. loT/M2Mの技術標準化動向
- 3. loT/M2Mの業界アライアンス動向
- 4. まとめと今後の課題



## 1. はじめに

## 1-1. IoT/M2Mによる将来市場

#### ■ IoT/IoEの広がるアプリケーション、M2Mの増えるコネクトデバイス

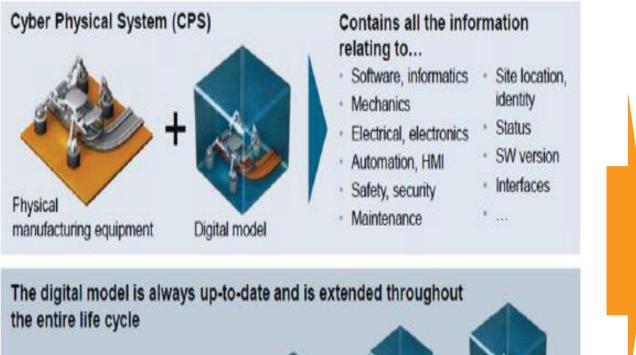


出典:Internet Week (シスコシステムズ:2014.11)

出典: TSensors Summit 資料より

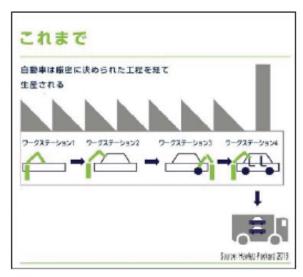
## 1-2. CPSによる第4次産業革命 (Industrie 4.0)

実世界(Physical System)の現場センサーネットワークなどの情報をサイバー空間( Cyber System)と結びつけ、実情を的確に表現することによってより効率のよい高度な 運用を実現するためのサービス・システム。

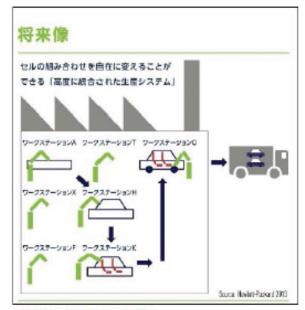




出典:Forum Industrial IT, Hannover, April 07, 2014



#### これまでの生産ライン (出典: Final report of the Industrie 4.0 Working Group)

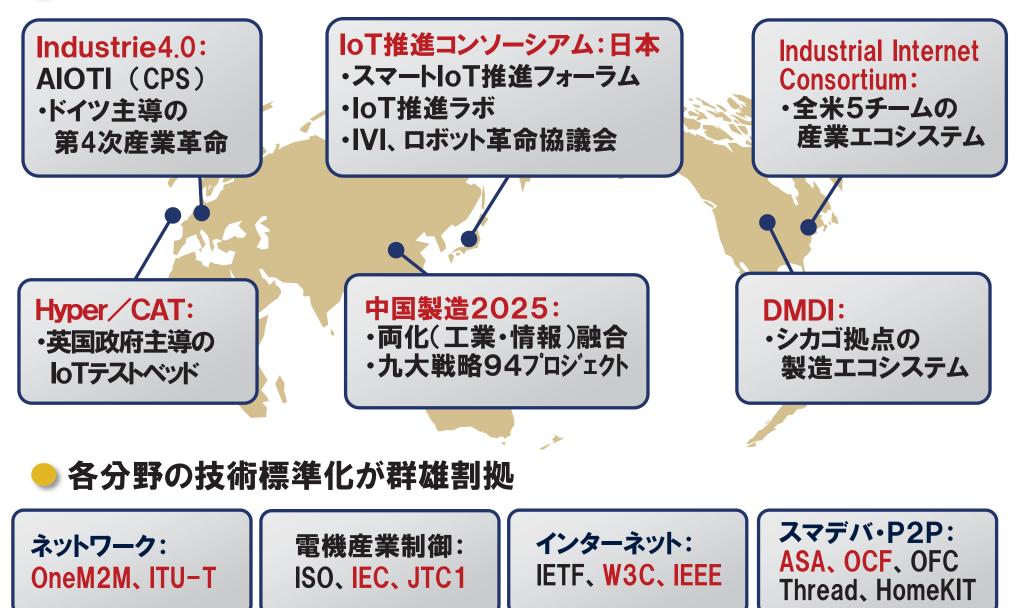


未来のスマート工場の姿。 (出典 : Final report of the Industrie 4.0 Working Group)

## 1-3. loT/M2Mのプロジェクト・標準化動向

**HITACHI** Inspire the Next

#### )グローバルで様々なIoT/M2Mの国家プロジェクトが乱戦模様

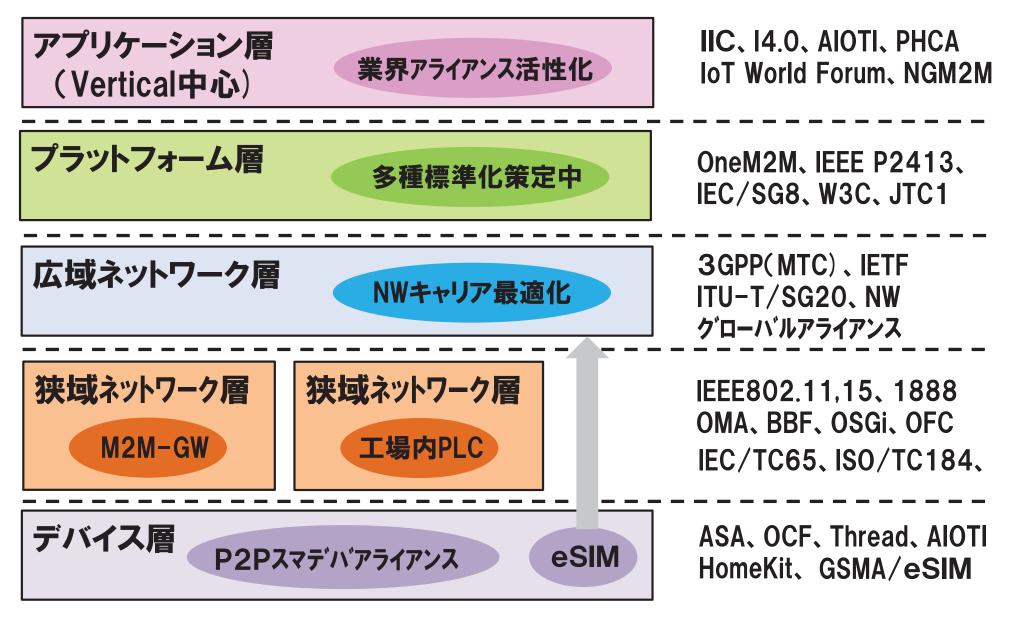


5

1-4. 技術標準化と業界アライアンスの位置付け



#### Horizontalな技術標準化、Verticalな業界アライアンスが活性化し大乱戦



## 1-5. 技術標準化と業界アライアンスの分類

#### ■ 技術標準化グループは、下記3グループ6分野に大別

#### 【1】通信・インターネット系

- ① OneM2M、ITU-T(通信キャリア系):SG20統合など
- ② IETF、W3C(インターネット系):Web of Thingsなど
- 【2】電気·産業制御系
  - ③ IEC/TC(産業制御業界系):SG8、TC65、MSBなど
  - ④ JTC-1(ISO/IEC)、ISO(電気業界系):WG10、TC184など
- 【3】P2P·スマデバI/F系
  - ⑤ IEEE(IT機器IF業界系):P2413、802.11/15、1888、など
  - ⑥ Open(モバイル、家電系):OMA, OASIS、BBF、HGI、OSGi、など

#### ■ 業界アライアンスは、下記3グループに大別

【1】異業種エコシステム系

・I4、IIC、DMDI、AIOTI、IoT World Forum、中国製造2025

【2】リーダ企業中心系

•ASA, OIC, Thread, HomeKit, e-F@ctory, Open Fog Consortium

- 【3】同業種・同分野チーム系
  - •PCHA、NGM2M、IVI、VEC、RRI、World/Bridge/Global—Alliance



## 2. loT/M2Mの技術標準化動向

# 2.1 通信・インターネット系 2.2 電気・産業制御系 2.3 P2P・スマデバI/F系

2-1.通信・インターネット系

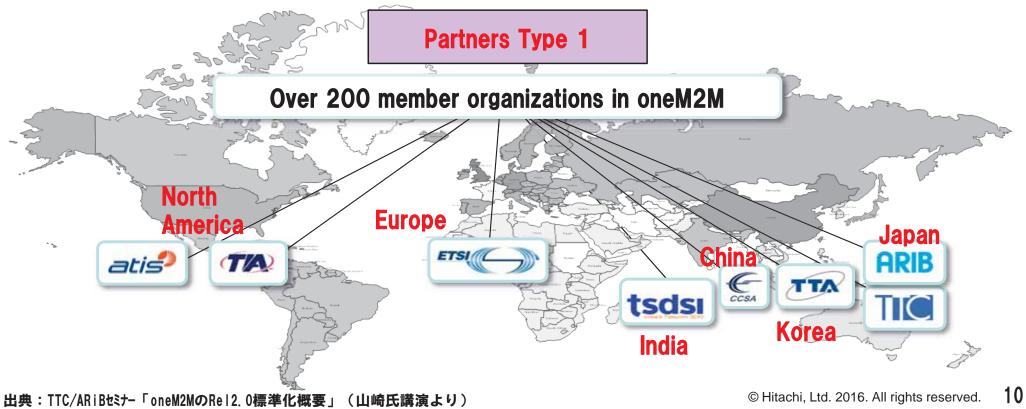






# 2-1-1. On e M 2 M

- > Horizontal技術標準化の推進、共通サービス(レイヤ)プラットフォームの実現
- > 2012年 7月 ARIB/TTC等世界の7つの標準化団体が設立
- > 2015年 2月 Release1仕様書セット発行(最低限の機能)
- ➤ 2016年 5月 第2回Interoperability Test Event開催
- > 2016年 8月 Release2仕様書セット発行(Rel.1の拡張)
- > 現在、次期仕様リリース(Release3)に向けた作業実施中



# 2-1-1. On e M 2 M

 ● 6 WGでユースケース、Work Itemを設定し、技術仕様(TS)と技術レポート(TR)を作成
 ● 2015年1月(TP#15)で1st Draftの最終修正、正式Release1.0は2015年2/4。 Relase2.0は2016年夏、TestWG、Industryユースケース、セマンティック、など。

仕様書番号	タイトル
TS 0001	M2M Architecture:機能アーキテクチャ(Stage2)
TS 0002	M2M Requirements:要求条件(Stage1)
TS 0003	oneM2M Security Solutions:セキュリティ
TS 0004	oneM2M Protocol Technical Specification :コア・プロトコル(Stage3)
TS 0005	oneM2M Management Enablement (OMA): OMAデバイス管理の利用
TS 0006	oneM2M Management Enablement (BBF) : BBFデバイス管理の利用
TS 0008	CoAP Protocol Binding Technical Specification: CoAPとのバインディング
TS 0009	HTTP Protocol Binding Technical Specification:HTTPとのパインディング
TS 0010	MQTT Protocol BindingTechnical Specification:MQTTとのバインディング
TS 0011	Common Terminology: 共通用語

 ●14年12月9日 ETSIで oneM2M Showcaseを実施(仕様の説明、デモ等) (15年5月18日-TP#16@札幌に続き、東京Showcase開催5月25日@東京)
 ●16年9月9日ARIB/TTC共催セミナ「M2M標準化最新動向-oneM2M Rel2.0概要」

出典:リックテレコムセミナ-(KDD) 山崎氏:2015.2.24)

#### ITU-T SG20の概要

【経緯】2015年6月TSAG会合で設立に合意。

#### 【研究範囲】 IoTとスマートシティ・スマートコミュニティを含むそのアプリケーション

(IoT and its applications including smart cities and communities (SC&C))

#### 【構成及び研究課題】

	タイトル	備考
PLENARY		
課題1	Research and emerging technologies including terminologies and definitions	
Working Party 1	Internet of Things (IoT)	
課題2	Requirements and use cases for IoT	Q2/13の一部
課題3	IoT functional architecture including signalling requirements and protocols	Q1/11、Q3/13の一部
課題4	IoT applications and services including end user networks and interworking	Q11/13、Q25/16の一部
Working Party 2	Smart cities and Communities (SC&C)	
課題5	SC&C requirements, applications and services	Q20/5、Q25/16の一部
課題6	SC&C infrastructure and framework	Q20/5の一部

会合予定	役職者
【第1回会合(終了)]2015年10月19日~10月23日 @ジュネーブ 【第2回会合(終了)]2016年1月18日~1月26日 @シンガポール 【第3回会合]2016年7月25日~8月5日 @ジュネーブ	議長 Mr.Nasser Al Marzouqi (UAE) 副議長 端谷 隆文 氏(富士通)ほか7名

## 2-1-3. W3C (WoT: Web of Things)

<Web of Things Interest Group(WoT IG)の概要>



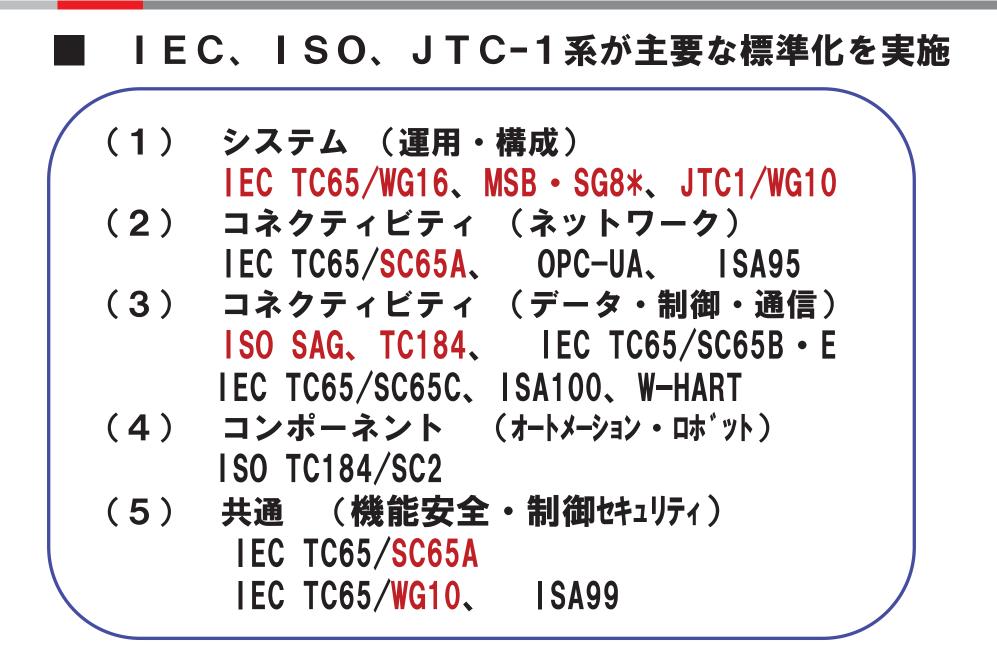
**Inspire the Next** 

- WoT活動の目的は、loTサービスへのWeb技術の適用加速化。 HTML5標準化活用と、Semantic Web、ServientモデルによるRA
- ・ <u>まずInterest Group(IG)から活動開始</u>し、後にWorking Group(WG)標準化予定。
- ・ スコープ: |oT向け製品・サービスに関するWebへの要件議論。
- ・ 議長:シーメンス (JoergHeuer)、インテル (Ricardo Morin)、計400社
- 日程:2014/12:WoT |G正式発足、 2015/4:第1回F2F会議 2015/11:ユースケースと要件の初版作成(第3回@札幌) 2016/4:WoT |G検討結果を元に、標準化項目案決定、
- ・W3C内の関連グループ: Technical Architecture Group, Data Activity Coordination Group, Privacy Interest Group, Web Payments IG, Web Security IG, Web Crypto WG, Web App Sec WG, WAI Protocol and Formats WG,
- ・ W3C外のリエゾン:

IEEE2413, OneM2M, IIC, Bluetooth, OASIS, OMG, ETSI, GSMA, IETF

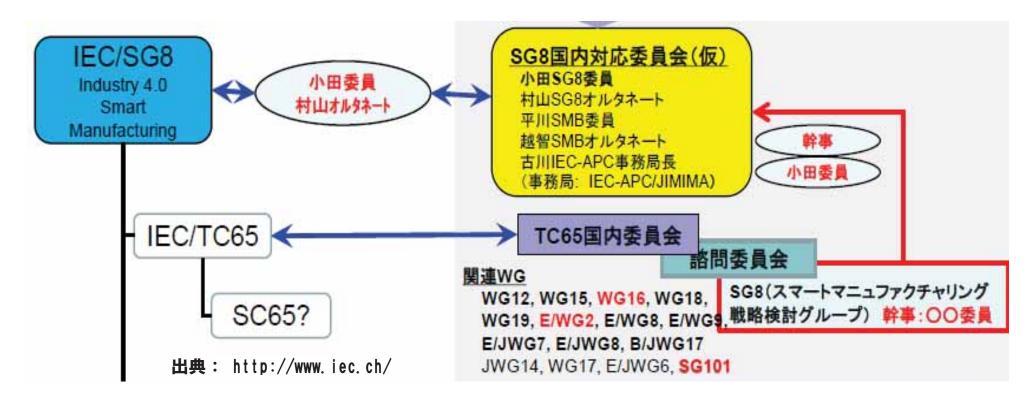
2-2. 電気·産業制御系





# 2-2-1. IEC SMB/SG8、MSB

IEC SMB/SG8では、Industrie4.0対応「Smart Manufacturing」を検討



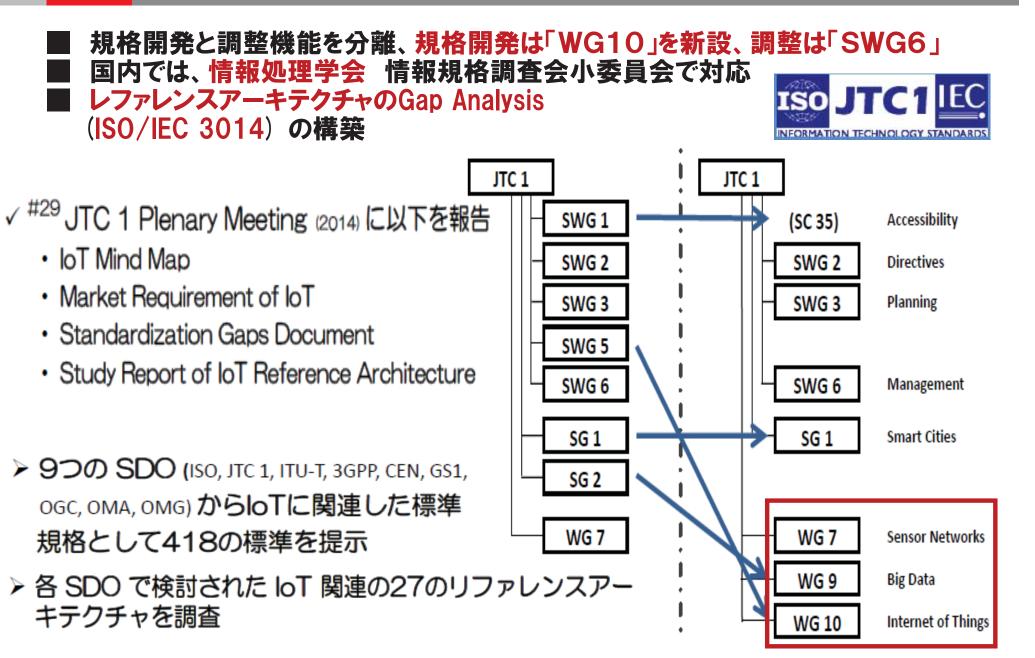
#### ■IEC市場戦略会議(MSB):「Factory of the Future」PJ

第1回2014年10月末、イートン社@オハイオで開始、15年夏にWhite Paper発行

- Siemensは、PLM設計系から工場自動化のエンジニアリングテェーンを提案
- ・ SAPは、産業分野だけでなく自動車、Oil&GAs、物流、など幅広い産業ドメインを提案
- 三菱電機は、工場間、企業間、工場内カイゼン、を提案
- 日立製作所は、System of Systemの共生自律分散システム、を提案

HITACHI

# 2-2-2. ISO/IEC/JTC1



HITACHI

## 2-3. P2P・スマデバI/F系



# 2-3-1. IEEE P2413

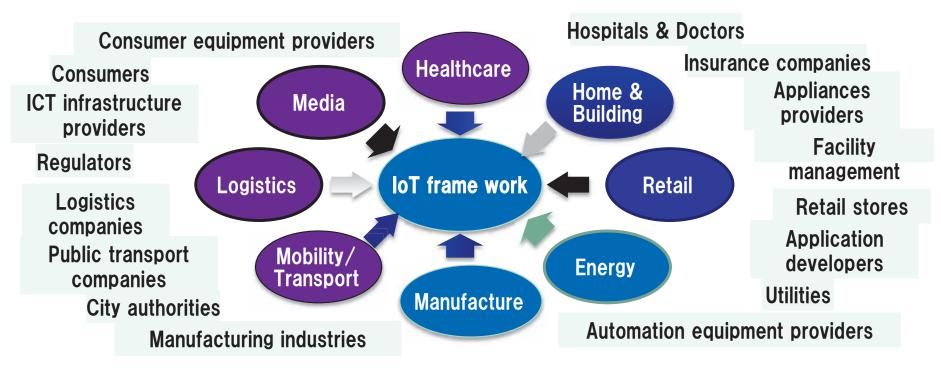
•IEEE P2413 —Standard for an Architectural Framework

● - 業界間の交流、相互接続性やloT向けフレームワークの策定



**Inspire the Next** 

2014年7月 第1回WG会合開催(ミュンヘン、独 Hosted by Siemens) 2017年1月 第11回WG会合開催(東京、日本)、2016年6月サンタクララ、9月バルセロナ メンバー: Chair Oleg. Logvinov (ST Micro)、Siemens、Broadcom、 Cisco、Emerson、Yokogawa、ZigBee、他 約50社 Draft作成: SiemensのRoland Heidel氏がエディターで作成中



出典: http://www.grouper.ieee.org/groups/2413/

## 2-3-2. LPWA (Low Power Wide Area)

IP500、LTE-M、LoRa、SIGFOX、などの新規方式が続々登場

	LoRa	SIGFOX	Ingenu (旧 OnRamp)	Nwave/ weightless- N	weightless –P	IEEE802. 15.4k	IEEE802. 11.ah	IP500	LTE cal-M	NB-LTE
推進団体	LoRa Alliance	独自	RPMA	Weightless SIG	Weightless SIG	IEEE 802.15	IEEE 802.11	IP500 Alliance	3GPP	3GPP
ネットワーク	スター型	スター型	スター型	スター型	スター型	スター型	スター型 ツリー型	スター型 メッシュ型	スター型	スター型
周波数 帯域	sub-GHz	subGHz	2.4GHz	sub-GHz	sub-GHz	subGHz	sub-GHz	sub-GHz	ライセン スバンド	ライセンス バンド
変調方式	スペクトル 拡散 LoRa独自	Up:DBPSK down:GMSK	スペクトル 拡散	DBPSK	GMSK offset- QPSK	スペクト ル拡散	OFDM	IEEE 802.15.4		
受信 帯域幅	500~ 125kHz	UNB	1MHz(40ch)	UNB	12.5kHz		1/2/4/16 MHz		1.4MHz	200kHz
伝送方向	up/down	up/down	up/down	1-way (upのみ)	up/down	up/down	up/down	up/down	up/down	up/down
伝送速度	0.3~ 50Kbps	up:100bps dn:600bps	up:624kbps dn:156kbps	100bps	200~ 100kbps	40kbps	150kbps~	500kbps	1Mbps	up:200kbps dn:144kbps
ノード数	1M台~	~1M台	~384K台	~1M台	制限無し		8191台/AP	1k~2k台	20k~台	
電池寿命	8年~	20年	_	10年	3~8年		数年	5~10年	10年~	10年~
無線通信 距離	郊外: 15km~ 都市: 2~5km	郊外: 30~50km 都市: 3~10km	北米 : 28km 欧州 : 9.2km	都市: 3~5km	2km~	~5km	1km	500m	屋外: ~11km	屋外: ~15km
実用化	0	0	0	0	2016年	0	2016年	0	2016年	2016年

© Hitachi, Ltd. 2016. All rights reserved. 19

HHACH

## 2-3-3. 通信技術と電気制御技術のレイヤ比較



#### ■ 通信の7レイヤと電気制御の4レイヤのリファレンスアーキテクチャ 整合議論(OneM2M、IEEE2413、JTC1など)が活性化

レイヤ機能	通信インターネト系	電気産業制御系
ハイレベル マネジメント	W3C (Web of Things)	<b>Digital Factory</b> (IEC/SG8,/TC65/WG16, JTC1/WG10)
リファレンス アーキテクチャ	OneM2M(Rel 1/TS0001) IEEE2413/SWG1	ISO/TC184(IEC62769)
プロトコル	OneM2M (Rel 1/TS0004,8,9,10)	ISA95, IEC/TC65(IEC62541) (OPC-UA)
セキュリティ	OneM2M (Rel 1/TS0003)	ISA99, IEC/TC65/WG10 (IEC62443)
ゲートウエイ マネジメント	OneM2M(Rel 1/TS0005,6) OMA,BBF	IEC/TC65(IEC61158) (PLC-NW)
デバイス ネットワーク	IEEE802.11,15.4	ISA100(IEC62734) WirelessHART(IEC62591)



## 3. loT/M2Mの業界アライアンス動向

- 3.1 異業種エコシステム系
- 3.2 リーダ企業中心系
- 3.3 同業種・同分野チーム系

アライアンス	設立 日	主要メンバ	対象分野	内容
IIC (全米)	<b>'14</b> .3	GE,AT&T,Cisco、IBM, Intel 他160社	産業、医療、交通、他	OMG(Open Management Group)から派生、 オープン技術による共通アーキとエコシステム、米 国主導チーム
14 (独)	<b>'</b> 13.11	Akateck,フランフォッファー、 シーメンス、ABB,ホ'ッシュ、SAP、 他20機関	産業(特に自動車、他)	<mark>ドイツ中心</mark> の産官学ビッグPJで、特に自動 車産業の第4次革命を目指す
DMDI	<b>'14.2</b>	<mark>ボーイング、ハネウエル、</mark> キャタピラ、他41社	産業(車、飛行機、他)	米国シカコ <sup>・</sup> 拠点のイリノイ大ラホゲ中心、自動 車、建機、飛行機の産業ディジタル化
中国製造 2025	<b>'15.6</b>	国家PJ:94PJ、64PJ の製造業改革	製造分野中心	中国政府肝いりで、2015年64PJ、2016 年95PJによる地方政府の製造業改革
ΑΙΟΤΙ	<b>'</b> 15.3	Alcatel,Bosch,Cisco, IBM、Intel,Vodafone,	多岐の業種分野	4のメンハ'や通信キャリア、チップヘ'ンダ'、など <mark>1</mark> 1の多様なWGにて推進する新団体
loT World Forum	<b>'</b> 13.10	Cisco, Rockwell,Itron, Intel,IBM、他140社	多岐の業種分野	Ciscoなどを中心とするカンファレンスであるが、 7層のレファレンスモデルを発表して仲間作りを 推進している
NIST (GCTC)	<b>'</b> 15.9	ATT、IBM、他230機関	スマートシティ	第2次GCTC(Global City Teams Challenge): CPS/IoT活用、50都市での 64チームの社会実証

# 3-1-1. IIC(Industrial Internet Consortium) Inspire the Next

#### <概要>

- ●GE主導で米5社が2014年3月27日に設立したIoTに関する普及推進団体。事務局は OMG (Object Management Group)。
- ●標準化は行わず、IoTの普及に向けてTestBedを実施するエコシステムを目指している。 現時点で23種類の提案がり、OHTP(オープン水平型)のシステムもあり。 リファレンスアーキテクチャIIRAは、I4のRAMIモデルと連携を強めている。
- ●スコープ:製造業、電力、ヘルスケアなど幅広い業種が対象(明確な範囲定義なし)
- ●四半期毎に会合開催:進捗確認と次の四半期の活動方向決定
  2014年:6月 Boston, MA, 2016年3月 Reston, VA、6月 東京

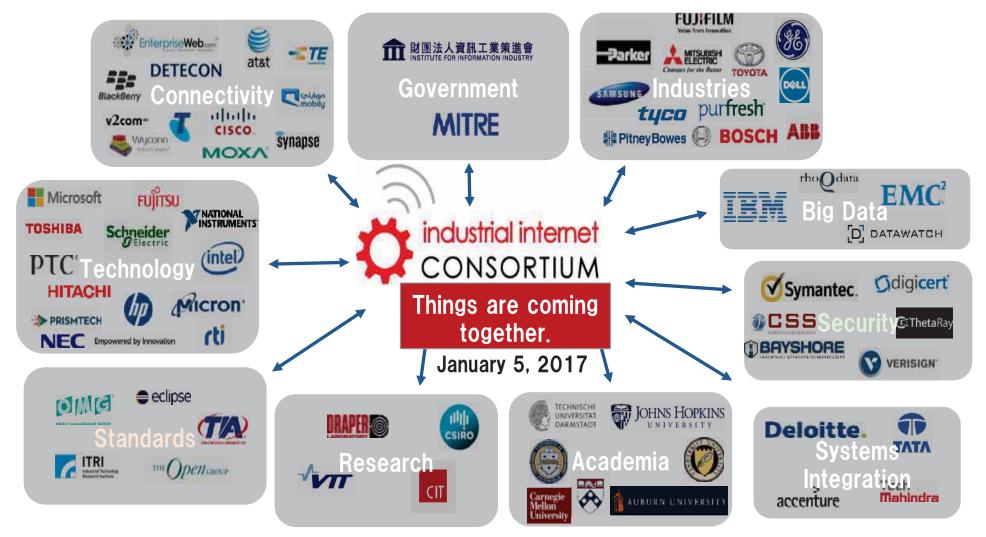
#### ●発起会社の狙い

- GE:IT/Internetの成長力にPredixソリューションを適用したい。
- AT&T:M2Mネットワークを大口顧客提供したい。(GE、Emerson、Rockwell)
- Cisco:既存ネットビジネスの拡張として、loE、フォグコンピューティングを考えている。
- IBM: CPS (Cyber Physical Systems) を商品にする。(スマータープラネットなど)
- Intel:スマートデバイスへの組込み、MoonIslandを商機と考えている。

# 3-1-1. IIC(Industrial Internet Consortium) Inspire the Next

#### <参加企業>: 日本は日本OMG(吉野氏)が事務局

●GE, AT&T, Cisco, IBM, Intelが発起企業。2016年3月時点で250社。 ●日本からは日立、東芝、富士通、三菱電機などが参加。ABB、Boschも参加。



出典: IIC Introduction & Overview for New Members (June 18, 2014)

#### <概要>

- ●2011年11月に公布された「High-Tech Strategy 2020 Action Plan」というドイツ政 府の戦略的施策の1つ。
- ●産官学の共同プロジェクトとして推進され、
  「Hannover Messe 2013」で最終報告を発表(MSB:Manufacturing Service Bus)。
- ドイツの電機、通信、機械などの工業会に よって運営される「Industrie 4.0 Platform」
   事務局の下でワーキンググループ活動を推進。戦略的施策を実践中。
- ●メルケル首相が自ら活動を推進、思い切った予算を振り分け。
- 第1次、第2次、第3次に続く、第4次産業 革命と位置付け、Cyber Physical System (センサネットワークなどによる現実 世界 (Physical System) と、コンピューティン グ能力 (Cyber System)を密接に連携させ
   RAMIによるIndustry向けレファレンスアーチテク

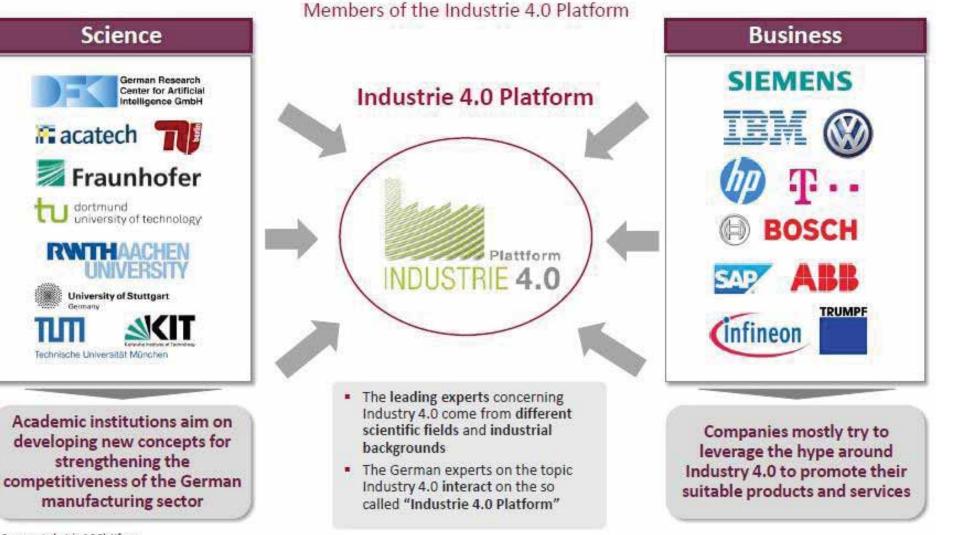
チャモデルを志向している。



出典:Recommendations for implementing the strategic initiative INDUSTRIE 4.0

## <構成> Science側で国家研究、Business側で標準化と商用化、約20機関





Source: Industrie 4.0 Plattform

出典: Capgemini Consulting (2014). Capgemini's PoV on Industry 4.0 and its ecosystem in Germany [PowerPoint slides]

3-2. リーダ企業中心系

アライアンス	設立日	主要メンバ	対象分野	内容
ASA	<b>'13.12.10</b>	Qualcomm, Microsoft, LG, シャープ、ソニー、パナ、ハ イアール、他50社	<b>ホーム</b>	<mark>クアルコム中心の「AllJoyn」</mark> (LinuxF)フレーム ワークで家電機器相互接続オープンソース化
OIC (OCF)	<b>'14.7.7</b>	Intel,Cisco,GE,サムソン, MediaTek, 他52社	ホーム、オフィス、産 業、自動車	多様な <mark>0S間で相互接続</mark> するオープンソースのプロ トコル仕様で家庭、 <mark>産業(IIC</mark> )へ適用 「IoTivity」(LinuxF) 組込みフレームワーク
Tread	<b>'14.7.15</b>	ク <sup>・</sup> ーク <sup>・</sup> ル、Nest,サムソン、 Arm, FreeScal他10社	ホーム	セキュワで省電力な無線NW仕様、15.4ペースの 6lowPANのメッシュネットでスマートホーム適用
HomeKit	<b>'14.6.2</b>	Apple,IBM,TI,ハネウェル、 フィリップス、他10社	ホーム、スマートデ バイス	<mark>アップルのiOS8対応</mark> のスマデバによる家電機器 の <mark>遠隔制御</mark> 仕様
eF@ctory Alliance*		三菱電機中心に、NXT Control、DataLogic等 30社	産業、製造	三菱電機のFA事業パートナープログラム、協力して顧客の開発、生産、保守のソリューションを提供
Open Fog Consortium	' 15.10	Cisco、Intel、東芝、 Microsoft、ARM、他	自動車、製造業、 ロボット、他	Cloudからルータ(Fog)、GW(エッジ)でのC omputingを重視したIoTシステムを志向、世 界地域毎の異なる分野で推進

## <Allseen Alliance>

- ●Linux Foundationがホスティングする団体で2013年12月に設立。インターネットに対応 したモノを相互に発見したり、運用するための標準技術策定を目指す。
- ●Qualcommが開発したIoT向けの共通言語/フレームワーク「AllJoyn」をベースにしている (QualcommはAllJoynをLinux Foundationに提供してオープンソース化)。
- ●2015年7月にMicrosoftが加入して参加企業が50社を超えた。



AllJoyn: Qualcommが2011年から開発し近傍P2Pサービス実現のための開発フレームワーク

- WiFi/(Bluetooth)/(WiFi Direct)に対応
- マルチOS、マルチデバイス、マルチ言語対応
- 無線通信、アドホックネットワーク、ディスカバリ等に関わる手続きを抽象化

出典:https://allseenalliance.org/

## **3-2-2. OIC** (Intel, Samsung, Broadcom)

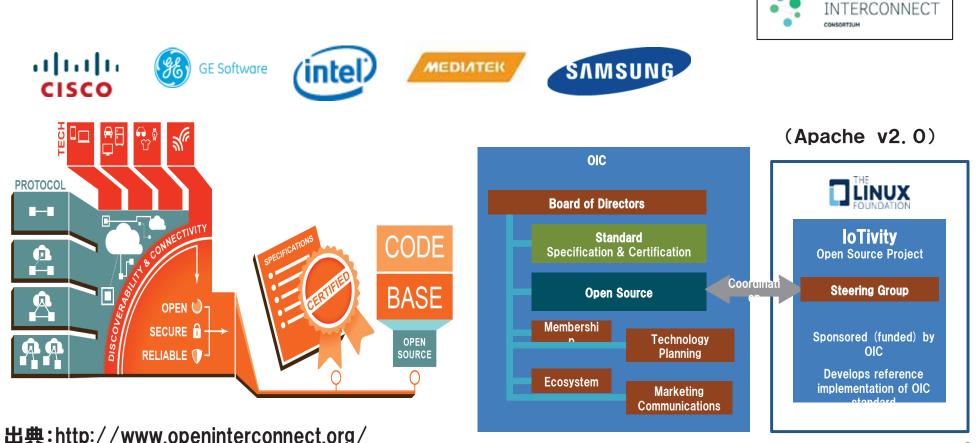
#### HITACHI Inspire the Next

## < Open Interconnect Consortium (OIC) >

●loTに関連する機器の規格と認証を策定することを目的に、ハイテク業界大手企業が 2014年7月に設立した団体、現在52社。 UPnPも合併協力活動している。 幅広いloT市場で利用できるオープンソース (Apache2.0)を提供する方針。

●参加企業(ダイアモント・5社)

ASAとも連携し、OCF (Open Connectivity Forum)を設立。



OPEN

アライアンス	設立日	主要メンバ	対象分野	内容
PCHA	' 14.4	CHA、mHealth,HIMMS、 による合同チーム	ITヘルスケア分 <b>野全体</b>	3団体合同によるITヘルス機器の互換性、 システム標準の策定と業界啓蒙
NGM2M	<b>'</b> 11.4	NEC、日立、オラクル、 富士通、HBA、SCSK、 他140社	プラットフォーム、自 動車、産業一般	新世代M2Mコンソーシアム:東大の森川教 授を会長に、情報交換WG、事例蓄積・普及 促進WGなどによる業界啓蒙、協業創生
IVI	<b>'</b> 15.6	日本機械学会、法政 大、他50社	産業、製造	法政大の西岡教授がリードする産学連携団 体、日本機械学会の生産システム部門「つ ながる工場」研究会による緩やかな標準化
RRI	<b>'2015</b>	三菱、日立、外資起業 、他数100社	産業、製造	経産省「IoT推進ラボ」の枠組みと連携し、 ロボット革命協議会にてスマートファクトリー向け IoTロボットを検討
M2M World Alliance	<b>'12</b> .11	NTTト <sup>*</sup> コモ、Telefonica、 SingTEL,AT&T、他	キャリアM2M一般	Jasper Wirelessをプラットフォームにする国 際M2Mローミングアライアンス
Bridge Alliance	<b>'</b> 04.11	<mark>ソフトバンク</mark> 、SKテレコム、 インド、タイ、フィリピン、 他	キャリアM2M一般	ソフトバンクを中心とするアジアAPACキャリ アM2Mローミング連合
Global M2M Association	<b>'11.2</b>	Orange、トイツテレコム、 Sonera、ソフトハンク、 他	キャリアM2M一般	<mark>欧州キャリア中心</mark> のキャリアM2Mローミング アライアンスで、ソフトバンクも加盟

## 3-3-1. 新世代M2Mコンソーシアム(日本)



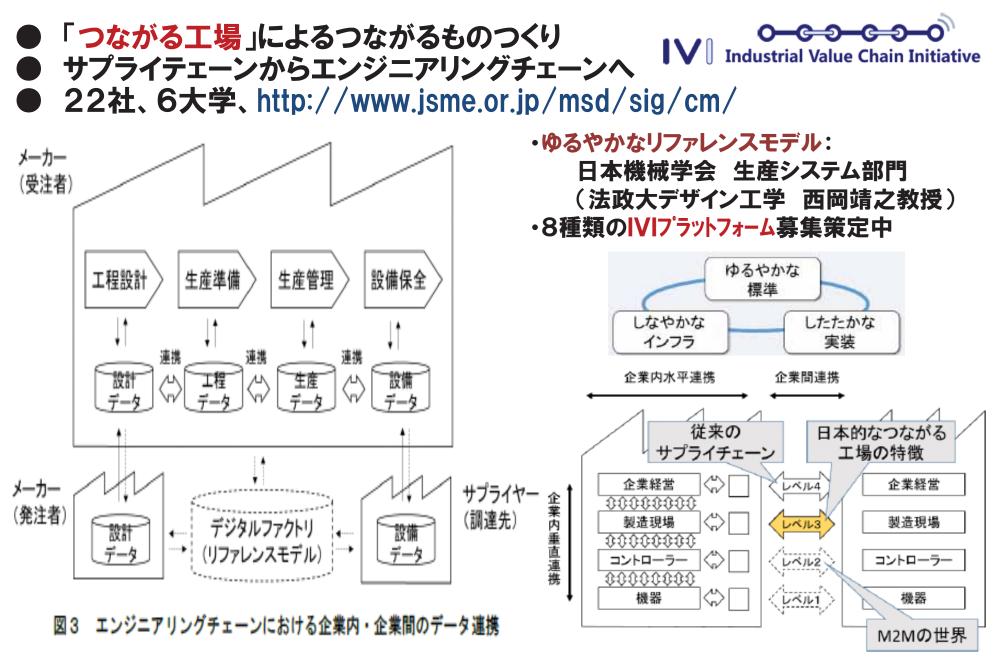
#### 国内最大のM2M民間団体(110社)、OneM2M(Tytpe2)加入 【会長】 まとめ・企画 佐藤理事/鉄川理事 New Generation 事務局 .... M2M Consortium 東京大学 先端科学技術研究センター 森川 博之 教授 対外対応 会計 木下理事 【理事】 技術検討WG 日本電気株式会社 佐藤 崇 (会長代理) 株式会社日立製作所 木下 泰三 日本オラクル株式会社 竹爪 慎治 SCSK株式会社 鉄川 貴志 Constraction OpenM2M 交通物流 トリリオンIOT TF 4.0TF 富士通株式会社 大澤 達蔵 TF Platform 木下理事 鉄川理事 株式会社HBA 白幡一雄 加藤楼 白榉理事 石松機

	項目	活動内容
情報交	情報交換WG(会合)	M2Mの事例紹介やM2M関連の新技術領域などの講演を実施 ライトニングトークでは会員企業の製品紹介を実施
情報交換WG	oneM2Mと標準化 情報共有	Rel2. 0への承認活動と、Rel3. 0に 向けたワークアイテムの提言と情報展開
	Open M2M Platfrom タスクフォース	Open M2M Platfromの 稼働
技術検討WG	交通物流 タスクフォース	NICTの委託研究「マルチエージェント未来交通予測による渋滞緩和」の 研究開発を継続
討 W G	Constraction4.0タスク フォース	建設現場でのM2M利用について実証実験を進める
	トリリオンIoT タスク フォース	医療、家電、自動車、環境、インフラ、など トリリオンIoT実現へのロードマップ作成

出典: http://www.ngm2m.jp/

## **3-3-2.** IVI (Industrial Value Chain Initiative)





出典:社団法人日本機械学会生産システム部門 ニュースリリースより(2015.06)



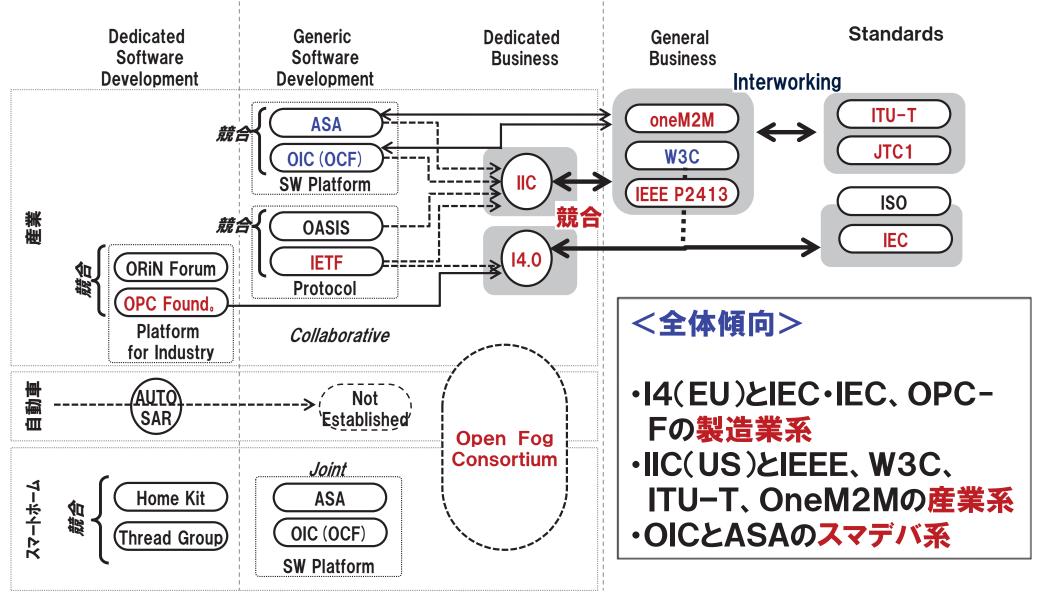
## 4.まとめと今後の課題

HITACHI Inspire the Next

- 1. 技術標準化:
  - ・通信インターネット系、電気制御系、P2PスマデバI/F系の3グループ、6分野、で乱立乱戦模様。
    ・通信インターネット系は「OneM2M」「W3C」、電気制御系は
  - 「JTC1」、「IEC/SG8」、P2PスマデバI/F系は「IEEE P2413」 がメジャー標準として先行。
  - ・リファレンスアーキテクチャ、プロトコル、セキュリティ、デバイス 管理、など比較(Gap Analysis)統合。
- 2. 業界アライアンス:
  - ・異業種エコシステム、リーダ企業中心、同業種同分野チーム の3グループで群雄割拠。
  - ・異業種では「IIC、I4」、リーダ企業では「ASA/OCF、OFC」、 同業種では「IVI」がメジャー団体として業界をリード。

4-2. まとめ(2)

## | 赤字主要団体のInterworkingが活発化、VH混合での争奪戦



HITACHI Inspire the Next

#### 【IoT/M2M標準化、業界アライアンスの特長】

- (1) 事業拡大のエコシステム作りへ
  - ・コネクティビティ確保のための技術標準(デジュール・デファクト)
    ・IoT/M2Mの市場獲得にはエコシステム戦略が最重要
    ・「同一技術分野」「技術の組合せ」での仲間作りが常套手段
  - ・「技術の標準化」「オープン化」でメジャー集団を形成
- (2) VerticalとHorizontalの両面展開
  - ・Vertical団体はエコシステムと技術デファクト化を並走 ・Horizontalは複数ユースケースで共通技術を広く標準化
- (3) Interworkingの重要性
  - ・複数の標準化・アライアンス団体の相互交流が活性化
  - ・参加企業間でのロビー活動でエコシステムを先行形成
- (4) 事業戦略部と研究開発部のペア参加
  - ・協業の目標分野、企業を決め二人三脚で参加活動

HITACHI Inspire the Next

#### 【課題】

- ・標準化はエコシステム(アライアンス)化が重要な目的。
- ・主要標準化・アライアンス団体のInterworkingに参加要。
- ・通信の7レイヤと電気制御の4レイヤのマッピング確立要。
- ・OSSコミュニティ(業界アライアンス)の勢力に注視。
- ・クラウドコンピューティングから「エッジコンピューティング」に注視。
- ・IoTセキュリティは4段階で標準化が必要。
- ・分野毎のデータ構造(セマンティック・オントロジー)標準も必要。

【施策】

- ・ビジネスは技術水平展開と、業種垂直拡大で両軸戦略が必要。
- ・クラウド・ビッグデータ・Alの付加価値事業は、異業種協業の前 に企業内異分野事業(鉄道など)でのIoT標準化から実用化。
- ・日本政府は、内閣府、経産省・総務省(loT推進フォーラム)、 技術実装と一体となった標準化取組みの支援が必要。
- ・グローバルな標準化・アライアンス機関との交流や展開が必須。





## 新世代M2Mコンソーシアム理事 (株)日立製作所 IoT・クラウドサービス事業部 事業主管

## 木下 泰三

## taizo.kinoshita.mg@hitachi.com